

# 『4つの場面ごとの【地域の目指すべき姿】』

※国より関わる医療・介護関係者が地域全体で目指すべき姿を明確にし、どのように行動するのかを、R5年内に取り組むような通達あり！

●在宅療養者の生活の場において、医療と介護の連携した対応が求められる場面 【①日常の療養支援、②入退院支援、③急変時の対応④看取り】を意識した取り組みが必要である。

●4つの場面ごとに現状分析、課題抽出、目標設定等を行う前提として、地域の目指すべき姿を必ず設定し、その目的を実現するために、達成すべき目標を4つの場面ごとに設定することが重要である。

行政・職能団体代表者で考えた 利根沼田圏域在宅医療・介護連携推進事業における目指すべき姿  
住み慣れた地域で安心して人生の最期まで暮らせるまち

① 日常の療養支援

目指すべき姿

●本人の病状等を関係者間で時間差無く共有するとともに、本人家族のニーズを把握しながら円滑に各種必要なサービスが利用できるよう支援する。

※実現するためにはDX化が必要。

② 入退院支援

目指すべき姿

●本人・家族・医療介護関係者を含め、顔の見える関係づくりを推進していく。  
●本人・家族の意思決定を支援し「望む生活の場や退院場所」等の意向を確認する。

③ 急変時の対応

目指すべき姿

●もしもの時の連絡先・行動指針・対応や希望の確認をしておく。  
●地域住民や医療介護関係者へのACP普及啓発。

④ 看取り

目指すべき姿

●『在宅支援ノートほほえみ』の理想の人生のページを活用し、多職種での情報共有・連携にて、本人家族の望む最期を支援する。

※必要に合わせて内容の更新をしていく。